No.025
令和２年９月15日
長野県信用組合
シンガポール駐在員事務所

けんしん BANK シンガポールレポート

新型コロナウイルス感染症影響下でのシンガポール総選挙

シンガポールでは、去る 2020 年 7 月 10 日に議会総選挙が実施されました。

選挙の結果、1965 年の建国以来、一貫して単独政権を担ってきた与党「人民行動党」(People's Action Party、以下 PAP)が定数 93 議席中 83 議席を確保し、引き続き政権を維持することとなりました。しかしながら、PAP の占有議席は初めて 9 割を下回り、野党である「労働者党」(Worker's Party、以下 WP)が改選前の 6 議席から過去最多の 10 議席に勢力を伸ばす結果となりました。

今回の総選挙は、新型コロナウイルス感染症の影響で国内経済が過去最悪の不況に直面する中での実施となり、国内経済の再生や雇用対策、今後の新型コロナウイルス感染症への対応が選挙戦最大の争点となりました。

今回のレポートでは、シンガポールの選挙制度の特徴と 2020 年総選挙についてお伝えします。

【 要 旨 】

- **シンガポール議会の総選挙は原則 5 年に 1 度。国会は 1 院制で議院内閣制度が採用されており、首相が最高責任者。**
- **シンガポールの選挙は国会議員と大統領を選出する 2 つの選挙のみ。投票は国民の義務であり、投票率は 90%超。**
- **選挙区は「小選挙区」と「グループ選挙区」の 2 種類。2020 年総選挙は議員定数 93 議席に対して、小選挙区とグループ選挙区の計 31 の選挙区に 192 名が立候補。選挙活動は大規模集会が禁止され、インターネットや SNS(交流サイト)を駆使した選挙戦となった。**
- **与党 PAP は「強力で安定した政権が必要」と主張。一方、野党 WP は「PAP に対抗する野党が必要」と国会での多様性を訴え。**
- **投票日当日は、新型コロナウイルス感染症対策として、使い捨て手袋の配付や検温等を実施。そのため、投票所によっては投票に想定以上の時間を要し、投票終了時間が直前で 2 時間延長される異例の事態に。**
- **与党PAPが圧倒的多数で勝利するも、得票率は過去最低に迫る。野党WPは過去最多の議席数を獲得。**
- **多くの若い有権者が野党に期待を寄せる中、今後政府がどのように求心力回復に取り組んでいけるかが大きな課題になると思料。**

1. シンガポールの選挙権と投票率

シンガポールでは、国会議員の選挙が原則 5 年に 1 度実施されます。国会は 1 院制で、議院内閣制度が採用されており、日本同様に首相が最高責任者です。

シンガポール国民は 21 歳になると選挙権が与えられます。投票は国民の義務として「義務投票制」が導入されており、正当な理由なく投票を棄権すると選挙人名簿から削除(選挙権剥奪)され、選挙権の回復には一定の金額を支払う必要があります。また、シンガポールには地方自治体がなく、選挙は 5 年任期の国会議員と

「シンガポールと日本の投票率」

シンガポール		日本	
2006年総選挙	94.00%	2014年衆院選	52.66%
2011年総選挙	93.18%	2016年参院選	54.70%
2015年総選挙	93.56%	2017年衆院選	53.68%
2020年総選挙	95.63%	2019年参院選	48.80%

6年任期の大統領を選出する2種類のみとなっています。そのため、投票は貴重な機会でもあることから、国民の選挙への関心は高く、投票への義務感も強いと言えます。その結果、高い投票率を誇っており、今回の総選挙でも投票率95.63%という、日本では到底考えられない投票率となりました。

2. シンガポールの選挙区

シンガポールでは、議員1名を選出する「小選挙区」と、4～5名の候補者がチームを組んで立候補し、最大得票政党が議席を総取りする「グループ選挙区」の2つの選挙区があります。「グループ選挙区」では、1つのチームの中にマレー系やインド系、その他の少数民族を最低1名候補者に含むことが義務付けられており、これにより議員の多様性を確保するとともに、華人系以外の少数民族の当選を支援する制度となっています。

シンガポールの国会議事堂

また、落選した野党候補者のうち高い得票を得た数名を国会議員として指名する「非選挙区選出議員」制度や、優秀な人材を確保するために大統領が9名を超えない範囲で議員を直接指名する「任命議員」制度という2つの制度もあり、野党や国民の意見を広く採り入れようとする選挙制度となっています。

3. コロナ禍での選挙戦

2020年6月23日、シンガポールのリー・シェンロン首相は2021年4月までの任期満了を待たずに前倒しの解散総選挙に踏み切りました。

今回の総選挙は、14の小選挙区と17のグループ選挙区から成る全31の選挙区に、リー・シェンロン首相率いる与党PAPのほか、WPを含む野党10党、無所属(1名)の合計192名が議員定数93議席をめぐり争う形となりました。

また、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大を警戒しながらの異例の選挙戦となったことで、ソーシャルディスタンス(社会的距離)の確保が難しい大規模集会や選挙カー等を使用した演説が禁止され、各党はテレビ中継やインターネット、フェイスブックなどのSNS(交流サイト)を最大限活用した選挙活動となりました。

与党PAPは、「私たちの生活、私たちの雇用、私たちの未来(Our Lives、Our Jobs、Our Future)」をスローガンに、「雇用が最優先課題」と公約に明記。新型コロナウイルス感染症の影響で経済が悪化する環境下での国民の雇用の維持・確保を全面的に打ち出すとともに、既に総額1千億シンガポールドル(日本円約7兆7千億円)近くの経済対策を実施した実績を強調し、危機下では強力で安定した政権が必要だと訴えました。

街頭に貼られた選挙ポスター

一方、解散前に国会で唯一議席を確保していたWPを含む野党は、党による政策のばらつきはあるものの、消費増税の中止や延期、低所得者救済のための最低賃金制度の創設や、「専門職・管理職・幹部・技術者(PMETs)」を含む

外国人雇用の厳格化などを訴えるとともに、与党 PAP に対抗する野党勢力が必要だと主張しました。

4. 投票日当日の混乱

7 月 10 日の投票日当日は、特定の時間帯に有権者が集中しないよう各有権者に指定の投票時間帯が設けられたほか、投票時に有権者に使い捨て手袋が配られるなど、新型コロナウイルス感染症対策が取られる中での投票となりました。

しかしながら、一部の投票所では手袋の配布や検温等に時間を要し、順番待ちの長蛇の列ができる場面がありました。その結果、投票時間内に投票ができない有権者が多くいたため、投票終了時間を直前で 2 時間延長するという異例の事態となりました。

投票の順番を待つ有権者の列

5. 2020 年総選挙の結果

2020 年シンガポール総選挙は即日開票の結果、与党 PAP が小選挙区とグループ選挙区、全 31 区のうち 28 区で勝利し、議員定数 93 議席中 83 議席を確保するとともに、1965 年の建国以来続く長期単独政権を維持することとなりました。しかし、得票率は前回選挙の 69.9%から 61.2%へ約 9 ポイント低下し、過去最低の数値に迫りました(過去最低は 2011 年の 60.1%)。

一方、改選前に野党で唯一 6 議席を持っていた WP は、過去最多の 10 議席を獲得し、得票率も前回の 39.8%から 50.4%と予想以上に健闘した結果となりました。

地元メディアによると、選挙結果を受け PAP を率いるリー・シェンロン首相は記者会見で「明確な信認を得た」と評価する一方で、「得票率は予想を下回った。国民が感じている収入減や雇用不安の痛みを反映する結果となり、特に若い有権者を中心に野党に期待する声があった」と厳しい表情で語りました。

今回の選挙結果では、WP の健闘が目立ちましたが、議員数では依然として PAP が圧倒的な議席を確保しており、今後の政権運営には特段支障はないものと思われます。しかしながら、今回の選挙で多くの若い世代が野党に投票したのであれば、若年層の PAP 離れが窺え、今後の政策の検討や実行については少なからず影響があるのではないかと考えられます。

6. 終わりに

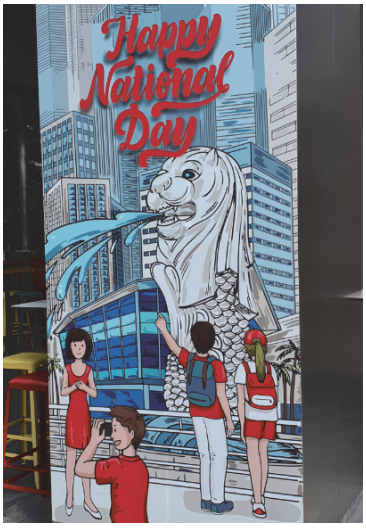
2020 年のシンガポール総選挙は、新型コロナウイルス感染症の影響により、1965 年の建国以来、最悪の経済危機下での実施となりました。今回の選挙戦で最大の争点となっていた経済・雇用対策において、最低賃金制度の創設や「専門職・管理職・幹部・技術者(PMETs)」を含む外国人雇用の厳格化を主張していた野党が議席を伸ばしたことは、シンガポール人の賃金上昇や雇用創出の機会を外国人が奪っているという国民の不満の表れでもあります。

しかしながら、国土が狭く、資源の乏しいシンガポールは、外国人や外資を活用して先進国にまで登り詰めてきたことも事実です。

今後、シンガポール政府は、海外企業の誘致や優秀な海外人材の活用という成長戦略と国内の所得格差解消という 2 つの難題に向き合いながら、どのように若年層の求心力回復に取り組んでいけるかが大きな課題になるのではないでしょうか。

駐在生活記

独立から 55 周年の「ナショナルデー」



ナショナルデーを祝うポスター

去る 2020 年 8 月 9 日、シンガポールはマレーシアから独立して 55 周年となる「ナショナルデー(独立記念日)」を迎えました。

私にとってシンガポールに赴任してはじめての「ナショナルデー」。「ナショナルデー」に国を挙げて盛大に祝われる一大イベントは「ナショナルデー・パレード」と呼ばれ、巨大なシンガポール国旗を吊り下げたヘリコプターがシンガポール島中を飛行するところから始まります。その中でも、オフィス街や住宅地の中を最新鋭の戦車や兵器が通っていくパレードは圧巻であり、シンガポールならではの貴重な経験となりました。

今年は世界的流行(パンデミック)を引き起こしている新型コロナウイルス感染症の影響で、様々なイベントが大幅に縮小された中での開催となりました。しかしながら、シンガポールの街中が赤と白の国旗の色で埋め尽くされ、多くの国民が国旗の刺繍がされたマスクをし、ナショナルカラーである赤色のシャツを着て参加している姿を見ると、今回の「ナショナルデー」のテーマであった「Together、A Stronger Singapore!」の言葉どおり、国民が団結して感染症に立ち向かい、乗り越えていこうとする気持ちが伝わってきました。

世界では新型コロナウイルス感染症の感染拡大に未だ収束の兆しが全く見えない状況が続いていますが、一日も早く収束を迎え、来年は例年どおりの「ナショナルデー」となることを祈るばかりです。

(筆者：松倉　健介)

国旗を掲げて飛ぶヘリコプター

プロジェクション・マッピングで彩られた「シンガポール国立博物館」

当事務所が入居するビル前を通る戦車パレード

【参考文献】
総務省 HP、シンガポール首相府選挙局(ELD)HP、JETRO・ビジネス短信、時事速報、NNA、日本経済新聞、現地各紙報道・情報紙、「シンガポールを知るための 65 章」

ここに記載されている情報は、情報提供を目的として作成したもので、何らかの勧誘を行うものではありません。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成しておりますが、その正確性や妥当性を保証するものではありません。ご利用にあたってはお客様ご自身でご判断くださいますよう宜しくお願い申し上げます。